

第2回 令和3年度使用 中学校教科用図書審議会

日時：令和2年7月6日（月）

17時57分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

令和3年度使用中学校教科用図書審議会（第2回）会議録

日時：令和2年7月6日（月）17時57分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」

委員長	小 椋 孝
委員	石原絵里子
委員	松田大悟
委員	吉江信貴
委員	鈴木洋子
委員	吉村達也
委員	宮入祥郎
委員	杉浦芳則
教育指導課長	松原 修

「事務局」

統括指導主事	二ノ宮正信
指導主事	子野日芳和

○ **担当** 皆様、改めまして、こんにちは。

本日も、お集まりいただき、ありがとうございます。

定刻前ではございますが、おそろいのようなので、これより「令和3年度使用中学校教科用図書審議会」第2回を始めさせていただきます。

初めに、資料の確認等をさせていただきます。

本日お配りいたしました資料は、1枚目の次第にお示ししております。御確認いただきますようお願いいたします。資料1、2、3まででございます。よろしくようお願いいたします。

初めに、前回の審議で話題に上がったデジタル教科書のことについて、事務局より説明をさせていただきます。

まずは、美術科、光村図書において、デジタル教科書の発行予定について確認いたしました。ここについては、発行予定はないということで確認をしております。

また、デジタル教科書には学習者用と指導者用がございます。文京区では、教師用のパソコンに指導者用のデジタル教科書をインストールし、教師用のパソコンから、電子黒板、本区では「アクティブボード」と呼んでおります。そこに教科書や問題や図、写真などを投影し、生徒の学習理解につなげているところです。今後、1人1台ということになると、学習者用のデジタル教科書についても教育委員会では検討事項として考えていく必要があるというふうに認識しております。

デジタル教科書につきましては、以上、御説明申し上げましたとおりです。

それでは、早速、委員長に審議を進めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○ **委員長** 今の件でよく分からなかった部分があるのですけれども、1人1台とは何のことですか。

○ **担当** タブレットのことでございます。

○ **委員長** 生徒にということですね。

○ **担当** はい。

○ **委員長** 光村のデジタル教科書は、学習者用も指導者用もないということですか。

○ **担当** はい。その確認をしております。

○ **委員長** 両方ともないということですね。

○ **担当** はい。

○ **委員長** では、使えないということですね。

○ **担当** 令和3年度の場合については、ないということです。

○ **委員長** 来年度はそういうものを使えないということでございます。

それでは、よろしく申し上げます。

最初に説明があったとおり、前回審議をしました音楽、美術、保健体育について、教科書展示会の結果が出ておりますので、関連のところの説明をお願いします。

○ **担当** 資料2と資料3とを併せて御覧ください。

音楽につきましては、資料2、資料3とも特に御意見は出ておりませんでした。

美術についてです。

資料2、ナンバー34のところで御意見を頂いています。「色相環の部分が日本文教、光村図書はオレンジ色の発色がよくないと思う」と書かれております。関連するページが、光村図書は1年生の78ページ、開隆堂が1年生の63ページ、日本文教出版が、1年生の72ページと、2、3年生、上の64ページに色相環が出ています。

同じく、資料2のナンバー34の中で、「開隆堂と日本文教は大判化で読みやすい」ということが上がっております。

続いて、ナンバー36です。「文京学院大のデザイン、根津神社の写真が載っているものが印象的でした」というところです。文京学院大のデザインについては、前回、話題に上がりました。開隆堂の2、3年生、77ページに載っております。根津神社の写真につきましては、事務局のほうで確認できませんでした。

資料3についてです。美術です。

8ページの上段のほうで御意見を頂いています。「日本文教出版のものが3冊発行されているので各学年（1、2、3年）それぞれに対応しやすいと思いました」。

それから、13ページの下段のところ。「これまで、少数派色覚の生徒が困っていた色相環の表現が、「彩度」を示すのに、これまでの赤色系統でなく、黄色系統となった開隆堂出版社の「美術」の教科書は、とても有難いと思います」というところです。先ほどの色相環のページのところで、確かに、意見のとおり、光村図書と日本文教出版は赤色をもって彩度を示しています。それに対して、開隆堂は黄色で彩度を表しています。そういった違いがございます。

続いて、保健体育についてです。

資料2は、特にございません。

資料3です。

6ページの下段のところ。東京書籍、「P159に女兒の裸の写真が掲載されています」と書かれてあります。事務局としましては、これは検定を受けているので問題はないというふうな認識を持っております。

同じく、東京書籍は、「eスポーツについて唯一、記載がありませんでした」という意見です。大日本図書については、7ページ下部のところ、ミニ知識という形でeスポーツの扱いがあります。大修館書店については、「eスポーツ」という表記は確認できなかったのですが、「ARスポーツ」、ちょっとeスポーツとは異なるかもしれないのですが、そういったテクノロジーを生かしたスポーツについては記載があります。学研教育みらいは、17ページ下部に情報サブリという形で取扱いがあります。東京書籍については、確認することができませんでした。なお、学習指導要領では、体育理論の内容で、自己に適した多様な楽しみ方を見つけたり、工夫したりすることが大切であることについて指導

するとされています。

教科書展示会からの美術、音楽、保健体育に関する御報告は、以上です。このことについて、審議をお願いいたします。

○ **委員長** 今の報告があって、こういうような意見を区民の方から頂いているということでございますけれども、これについて、何か、御意見があれば、挙げてください。保健体育の女兒の写真について、どうでしょうか。eスポーツのほうは、特に大きく取り上げているわけではないので、なくても大丈夫かなとは思いますが。

○ **委員** 私もそう思います。eスポーツは、専門の先生に教えていただきたいのですが、体育実技の観点から、なくても構わないのかなと思います。

○ **委員長** スポーツの多様な楽しみ方というところで、こういうのもあるよという紹介なので、体育の指導とか、そこにまで関わるものではないとは思いますが。

よろしいですか。女兒の写真は気になるということで、議事録に残していただくぐらいで。

○ **担当** はい。

○ **委員長** では、技術・家庭、技術分野をお願いします。

○ **担当** まずは、東京書籍からです。東京書籍は、始まりのガイダンスのページが最も長く、12ページで構成されています。初めて技術を学ぶ子供たちが、学習の中でどのように問題解決をしながら進めていくのかということが一番初めに押さえられるようになっていきます。また、例えば、174ページのように、技術の扉というところで学習を広げたり、114ページで、テックラボ、基礎的な技能を確認したりすることができ、指導資料として活用することができます。目次の1、2ページにあるように、材料と加工の技術、生物育成の技術、エネルギー変換の技術、情報の技術、4分野の学習を統合した問題解決学習が設定されていて、3年間の学習の見通しを持って取り組むことができます。各編の第2章に、問題解決の評価、改善、修正といったところが配置されています。学習の振り返りと進捗について生徒が確認することができます。QRコードにつきましては、目次に示されている1か所だけです。そこから各ページにあるDマークのコンテンツにアクセスすることができます。動画やシミュレーション、ウェブページに接続することができます。

続いて、教育図書についてです。ガイダンスのページは6ページ分ということになっています。ただ、基礎的な技能をまとめた別冊の技術ハンドブックというものがありますので、そちらを併用することで実習に関わる情報を補っているというふうに捉えています。また、教科書の中で、スゴワザとか、ワザビトのコラムによって、学習した内容と実生活、社会、職業などを関連づけて考えることができるようになっていきます。各編の終末の問題には、3つの観点に基づいており、生徒自身が資質・能力の育成について振り返ることができるような構成になっています。見開き右上のQRコードで学習に関わりのある参考資料を見ることができるようになっていきます。

開隆堂出版です。ガイダンスは10ページ分あります。単元の導入、やってみよう、調べ

ようを設定していて、問題解決の土台づくり、技術を使って問題解決をするという学習の流れになっています。また、コラムでは、豆知識とか、探究とか、そういったものを配置し、生徒の興味関心を引く工夫がされています。右ページ、ページ番号横のQRコードから動画などのコンテンツを見ることができます。

SDGsの関連につきましてです。東京書籍は、巻末に示しています。教育図書は182ページ、開隆堂につきましては「持続可能な社会」という文言の扱いが全部で7回出ています。ぱっと見て大きくはっきり出ているのが東京書籍かなというところですよ。

また、プログラミングについてです。東京書籍は、巻末にプログラミング手帳というのが付録としてついています。教育図書は、208ページの特集、プログラムを学ぼう。開隆堂では、206ページに扱いがあります。

以上、3社についてです。よろしくお願ひいたします。

○ **委員長** すみません。今日、技術をやるということが認識できなかったの、東京都の資料を置いてきてしまったのですが、開隆堂、これはデジタル教科書はどのようなのですかね。後で報告してください。技術・家庭について、全て出ているのかどうか。

それから、この技術ハンドブック、これも教科書と含めて判断していいのですか。

○ **担当** はい。併せて判断してください。

○ **委員長** これも教科書として判断していいのですね。

○ **担当** はい。

○ **委員長** 御意見がある方は順に出していただければありがたいと思います。よろしくお願ひします。

すみません。先ほどのプログラミングでいうと、小学校では全体的に取り上げていますよね。中学へ来ると、この技術分野に移行して、ここで取り上げてくるわけですけども、そういう視点で見たらどうなのでしょう。どこが一番つながりがいいとか、そういうのはありますか。これもちょっと見ておいて、後で御報告いただければ。小学校のことをよく知っている人の視点で見ただけであればありがたいと思いますので、事務局のお2人のほうでちょっと見ていただいて。

お願ひします。

○ **委員** そのコンピューターについて引き続き言わせていただくと、気になったのが、開隆堂に関しては、その技術分野のところの取っかかりのところ、我々がよく使っているパソコンというところのハードそのもの自体について、OSとかも含めて、詳細な記述から入っているというところで、大体2項目ぐらいパソコンについてきちんと単元を切って説明しているのですけれども、東京書籍と教育図書に関しては、コンピューターそのものの使う側の端末についての記述という、ある一部分だけで終わらせているといったところが特徴的かなというふうに思いました。

現在は、コンピューターの端末は、タブレットだったり、スマホだったり、いろいろな端末があるので、そういったところを取り入れているのかどうかは分からないですが、古

い人間からすると、このコンピューターから入ってくるというほうが単元としては分かりやすいなというふうに感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

その辺は、指導者側としてはどうなのでしょう。

○ **委員** おっしゃるとおりで、コンピューターというとパソコンのイメージがあるのですけれども、今、いろいろな端末があるので、コンピューターだけではないという部分もやはりあるので、いろいろと載っているほうがいいのではないかとは思っているのですけれども。

○ **委員長** ありがとうございます。

技術も、今、1、2年生が週1時間。

○ **委員** 週1時間です。

○ **委員長** 3年生になると、技術と家庭で1時間、都合半分になってしまうということですね。

○ **委員** そうです。

○ **委員長** その時間数でこの教科書とすると、前回あったように、子供たちが自分たちで活用できる、そういう視点も大事かと思うのですけれども、そういう視点で見た場合は、つくりとしては、それぞれコメントを頂けるとありがたいのですけれども。

○ **委員** すみません。では、私のほうから見た感覚ということで、先生、申し訳ないのですけれども、教育図書についてはですね、まず、2つに分かれているというところで、ちょっと子供としてはどうなのかなと。実際に、物として、実技ということで、あと授業でということなのでも、実際にもう授業としては技術室の中でやるので、両方がくっついているほうがいいのかということでは、東京書籍と開隆堂のほうで、その両方の部分、実技と教材の部分については一緒になっているので、使いやすいのかなと。子供としては、ハンドブックのほうについては、なくしてしまう部分も考えられるかと。気をつけさせればいいのかいでしょうけれども、そういった部分があるのかなと。

それに関しては、東京書籍のは、実際に書かれている部分が、資料集のような感覚の部分が多くて、大ざっぱに見てみると、一つ一つが資料集のような形になっていて、何か調べるといって、そのページの絵を見たり、写真を見たり、調べる部分かと思います。

開隆堂と東京書籍については、どちらも同じような流れになっているという気はします。実際には、どちらもそれぞれ技術の教科書としてはずっとやってきている教科書なので、それぞれ技術の教員がやりやすいような形で工夫されている部分があると思います。

実際に、技術については、とにかく一番、工具を使ったりするので、安全面のところは大事なかなと思っているのですけれども、3社ともそうなのですが、安全については詳しく書かれているところなのでも、実際に授業として進めていくとしたら、子供たちの見ていく部分については、東京書籍の4ページ、開隆堂も4ページなのでも、それぞれのところでここにページとして出ているのですけれども、東京書籍は、木材の部

分が特に実技は多いのですけれども、33ページにも、作業をしながら、このページを開いていて、工具の使い方とかというところを話したときに、下には作業の安全には気をつけろというようなこともここに書いてあるので、作業としては、授業の進め方としては、開きながら作業すると注意も意識しながらできるのかなというふうな感覚ではいます。

すみません。長くなりました。

○ **委員長** ありがとうございます。

すみません。まとめると、安全に対する配慮は、東京書籍はとてもよい。

○ **委員** 配慮してあると思います。

○ **委員長** 自学自習という面ではいかがですか。授業で学んだことを、自分がこの教科書を手に取って、おうちで家庭学習をするようなときにやりやすいという度合いで見たら、これはとてもやりやすいとか、これはまあまあとか、これは普通といったら、どんな感じですかね。

○ **委員** 3社で大きな比較はできないと思います。

○ **委員長** どれも同じぐらい。

○ **委員** はい。どれも同じです。

○ **委員長** そういう視点では同じと。

○ **委員** 視点で同じです。

○ **委員長** よく分かりました。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○ **委員** よろしいですか。

○ **委員長** はい。お願いします。

○ **委員** 私も同感だなと思ったのは、教育図書の別冊は、非常に積極的な試みだったなとは思うのですけれども、やはり3年間使うことを考えると、どうしても、30人クラスに生徒がいたら、なくす子が1人や2人で済めばまだ優秀なほうというのが実態かなというふうに思うので、技術の先生が頭を抱える様子が何となく想像できるかなというふうに思います。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

今、木材加工等で作品を作ったりはしていますよね。

○ **委員** はい。しています。

○ **委員長** だから、悪いけれども、のこぎりを使ったりするのはこの時間しかないのですかね。

○ **委員** そうなのですよ。ほぼというか。

○ **委員長** 小学校でもちよっとやっている。

○ **委員** 使っています。

○ **委員長** やはり工具を使えるようになってほしいという点では、のこぎりと釘を打

つのが大事ですか。

○ **委員** そうですね。のこぎりとげんのうです。ですから、その部分の写真写りがいいのが東京書籍で、一番作業でこのところが要だなというところが大きく写真で載っているのですね。こういうふうに。ここが、実際には、技術としては、差し金を使うところと、げんのうを使うところのげんのうの持ち方、持つ位置なんかは。

○ **委員長** どの辺ですかね。

○ **委員** ごめんなさい。50ページ、51ページです。

○ **委員長** 50ページ、東書ですね。

○ **委員** はい。こんなに大きく載せる必要はないといえばそうなのかもしれないのですが、一番一応作業としては大事なところが、例えば、差し金のところで、板のところにびたつくっつけて、差し金の角の内側のところをつけて線を引くとかというところについては、説明をしながら写真があるとですね。

○ **委員長** こういうところは、当然電子黒板なんかに投影しても分かりやすいということですね。

○ **委員** そうですね。分かりやすいと思うのですよね。これがあれば。

○ **委員長** 一人一人のタブレットにしる、作業するときにはタブレットは置かないから、電子黒板だと思うけれども、こういうところがぼんと出ていると、これを投影すると、子供たちは受け止めやすいと。

○ **委員** はい。ほかの部分でも、教育図書なんかは、65ページにもその部分が出ているので、大きく映そうと思えば映せるのかなとは思いますが。

○ **委員長** ごめんなさい。例えば、対応するのは、開隆堂だと69辺りですか。これは同じような感じか。これはあれか。真っすぐな線を引きたいというところだけですね。こうやって小分けに載っているわけですね。ほかは。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** そうですね。インパクトが強いのはやはりここですわな。

ありがとうございます。よく分かりました。

あとはいかがですか。

どうぞ。

○ **担当** プログラミングにつきましては、小学校とのつながりということを考えると、東京書籍のやはりその巻末にあるプログラミング手帳の中、Scratchというところを非常に小学校ではよく活用して、プログラミングの入門というところで使っています。子供たちの見慣れている部分という、入り口というところでは、このScratchを取り上げて、中のほうもそうなのですけれども、取り組みやすいかなといったところは東京書籍かなというふうに思います。

○ **委員長** これが手帳になっているのは何か意図があるのですか。

○ **担当** ですから、技術以外でも持っていくとか、いつでも持ち運べるというような、

そういった配慮がされていると。ミシン目が入っているので、切り離して使えますよという編集だと思います。

○ **委員長** ここでステープラーで留めなさいということでしょう。この穴は。パソコンのそばに置いておけるけれども、さっき委員が言っていた心配もあるわけですね。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** 分かりました。

技術分野はこの辺の意見で大丈夫ですか。事務局のほう。

○ **担当** はい。

○ **委員長** では、技術分野はこの辺で。

○ **担当** 委員長、すみません。併せて、デジタル教科書についても3社とも発行予定があるということ。

○ **委員長** こっちはあるのね。

○ **担当** はい。確認をしております。

○ **委員長** では、家庭分野に参ります。

どうぞお願いします。

○ **担当** お願いいたします。

同様に、3社がございます。

東京書籍から御説明申し上げます。例えば、10ページにあるように、小学校家庭科の学習との接続、また、3ページのように、単元の流れが一目で明確になるように構成されています。各章の学習の最後にまとめの項目があります。例えば、100ページ、156ページ、208ページ、264ページのようにです。そのページを使って、振り返り、自己評価ができるようになっています。また、66ページのように、実習の手順に合わせて写真を配列するなど、実習の流れを視覚的に捉えやすい、そのような構成になっています。また、実習で学んだことを生かして短時間で取り組むことができる実践例や発展的に取り組むことができる実践例を示しています。具体的な技能についても、図や写真で示しています。左側のページの下部には、生活メモという欄があり、そこを使って学習内容を深めることができるような構成になっています。

続いて、教育図書です。各章のまとめ、例えば、34ページ、68ページのように、そこが新学習指導要領の3観点に基づいたものになっています。14ページは、家族・家庭の基本的な働きというものを学びます。イラストが多くて、視覚的に捉えやすい構成になっています。単元の初めに、自立度チェック、例えば、13ページのようなところです。自立度チェックがあり、自分の現在の生活を振り返ることができます。振り返ることで、これから学習する学習内容と関連づけて考えさせるという工夫がされています。

開隆堂出版です。毎時間の学習目標、単元ごとの振り返り、学習したことと生活を結びつけることができる、そういった構成になっています。例えば、25ページ、26ページのようにです。そこで、説明の文章を補うように、写真や図が配置されていて、これも視覚的

に学習課題の把握や思考を促すといった構成になっています。実習の欄、例えば、116ページの下段のほうでは、調理方法に関するQ&Aが示されていて、生徒の疑問に答えるような形の内容になっています。各ページの下部には豆知識があり、学習内容の理解を深める助けになるようになっています。

SDGsにつきましては、東京書籍では、206ページで学習内容として扱い、巻末の5番のところにリンクするようになっています。教育図書では238ページ、開隆堂出版では64ページに扱いがあります。

以上、家庭分野の3社についてです。よろしくお願ひいたします。

○ **委員長** 御意見のある方はお願いします。

すみません。視点としてですね、食品と栄養素のところが随分違うのですけれども、中学生にはどれが一番ぱっと入って行って、今、ダイエットだの何だのという中で、必要なものはしっかり取らなければいけないよといったら、どんなところがこれはいいでしょうかね。そういう視点で皆さんにも見ていただいて、御意見を頂ければありがたいのですけれども、何か妙に細かいというか、教育図書は、こうやって食品の成分が全部ずらっと出ていたり、後ろにこのシールまでついているのですね。力を入れているのは分かるのですけれども、こういうシールがついていて、これを貼ってみようというって、これは、2、3枚貼ったら終わりですかね。片や、開隆堂は、でかでかと写真なども入れて、これがどれぐらいですよということが出ていますね。東京書籍も、見開きでこういうような形で、何群がこれだとか、こういうことが出ているのですが、子供たちが見て、すっと入ってくるというか、なるほどなというのはどんな感じですかね。

あとは、この食品添加物なんかのところのあれですね。食品の表示なんかでいくと、東京書籍さんが、44から4ページぐらい。開隆堂が、98ページぐらいから、99、101ぐらいまでいきますかね。教育図書が、106、107、108、109、つまり、食品の安全性とか、そういうところまで含めての説明です。

食品のところなんか、御感想はいかがですか。あまりどかんと写真が出て素材別に出ても分からないですかね。何をどれぐらい取っていいかとね。

○ **委員** 開隆堂の130ページの加工食品の表示とか、ほかにもあるのですね。教育図書が109ページ。割と今は加工食品が多い中、私はよく子供にちゃんと後ろを見て買物をしなさいと言うのですけれども、取らないで済む添加物は取らないほうがいいかなと私は思っているのですが、何かそういう説明はどこが一番いいのかななんて。

○ **委員長** 東京書籍だと、49とかですか。

○ **委員** そうですね。49ページですね。

○ **委員長** ここですね。

○ **委員** これからどんどん、子供たちが中学生になると、自分で買物をして、自分で選択をしていくときに、どこが一番それを子供たちに教えてくれるのかなと思うと、どうなのでしょう。

- **委員長** ぱっと見た目、開隆堂などは分かりやすいけれども。ハムのこれとか。でも、どこも同じですかね。
- **委員** 何か、このハムのあれが、開隆堂がすごくぱっと見で分かりやすいかなというふうには感じたり。
- **委員** 教科書の特徴で、東京書籍さんは大体真ん中に文章を持ってくるようにして、周りに、説明だとか、附属だとかというような形で持っていくような形にしているのが特徴なのですけれども、それでどうなのかな。見やすいのか見やすすくないのかというところは、それぞれの教員の説明の仕方と子供の見やすさだと思うのですけれども。内容的には、やはり同じなのかなとは思っているのですけれども。
- **委員長** いずれにせよ、すごい情報量ですわな。
- **委員** 情報量は本当に。
- **委員長** 子供らに大事なことがずっと入っていくのが。
- **委員** 調理のものなんかは料理の本みたいですよ。教科書というよりは、調理本みたい。献立表みたい。
- **委員** 私がこれを見たとき、レシピ本かなと思った。3社ともね。
- **委員** ずっと取っておく分にはいいのですけれども、先生方の授業をされるのにはどうなのだろうと。結構教科書は学年が終わるとすぐ捨ててしまう御家庭があるのですけれども、それこそもし東京書籍だったら捨てずに女の子も男の子も持っていけるなどとは思っているのですけれども、そこまで別に教科書は長く使うものではないのかもしれないかもなくて。
- **委員** 文京区はありがたいことに電子黒板があるので、家庭科の先生方はクリックをしながら電子黒板で子供には分かりやすいように見せているのですね。
- たしか、古いものだと、東京書籍は、ここは場所が違うのですが、悪徳商法のところで、何かクリックをしたのだけれども違う商法が出てきたというものがあって、これはどうやって直したらいいのですかと前に言われて、これはそのままクリックしたら出てしまうのでというのはあったので、それが直っているかどうかはちょっと分からないのですけれども、東京書籍の悪徳商法のところだったのですね。
- **委員長** 今、ちょっと出ましたけれども、消費者としての正しい知識なんかはどうですかね。東京書籍が192、193。開隆堂が、246とか、247とか、その辺りですね。教育図書が。
- **委員** 254。
- **委員長** ありがとうございます。
- **委員** これだと、ぱっと見、東京書籍が見やすい感じ。
- **委員長** そうですね。
- 教科書としてのこのつくりというか、デザインというか、見た目はどうですかね。実技ですから、ぱっと参考にして、こうやるのですけれども、見やすいとか、そういう点では。
- **委員** ミシンの使い方とかは、東京書籍さんが何かとても親切な感じ。

- **委員** 実技系、138とか、あの辺りですか。
- **委員** そうですね。138とかで。何かイラスト系は東京書籍さんはちょっと見やすい感じ。
- **委員** 見やすいですね。
- **委員** 本当にこれなんかは、捨てないでちゃんと取っておいたほうが、大人になってからも使えるのではないかなと。
- **委員** 開隆堂の教科書は隙間が多いなど。レイアウト的に、すごくこの横長を生かし切れていないなど。例えば、開隆堂の250ページ、251ページをさっと見ると、空白が多い。ほかはぎゅっと詰まっている感じがするのですが、内容はちゃんと書いていらっしやると思うのですが、チープに見えてしまうというか、内容ではないのですが、そういう印象を受けてしまうレイアウトかなというふうに感じました。
- **委員長** ありがとうございます。
- **委員** 次のページも、結構白い感じ。
- **副委員長** 東京書籍は、ページの右下が、ぱらぱら漫画になっているんですね。
- **委員** 本当だ。
- **委員** 右側のところがそうなのです。
- **委員** 何のためにこうなっているの。
- **委員** 子供はずっとこれを見てしまう。東京書籍は、何か下にたまに定規が出てきますね。ちょっとこれで測れてしまうみたいなの。
- **副委員長** これは、バナナの大きさとか、大根の大きさとか、そのページの写真が実物大ですか。

何か、自己評価とかもあって、別に使うか使わないかは先生方が決めれば良いと思うのですけれども、盛りだくさんという感じがします。

- **委員** 料理のレシピなのですけれども、開隆堂は、ちょっと味が濃いめの内容になっているかなと。塩分の使い方とかですね。例えば、ショウガ焼きとかで見比べていただくと分かったりするのですけれども、同じ1人前であったとしても、多分ちょっと塩分が多めかなというようなレシピになっていたりしますので、健康面を考えれば、塩は薄めのほうがいいのではないかなと。

- **委員長** さっき、保健の教科書で健康診断が云々とあったので、家庭科の教科書は、幼稚園や保育園に行くので、そういう写真はどうかと思って見たのですけれども、教育図書の56ページに、ある意味、ほほ笑ましいのかもしれないけれども、お父さんと子供3人でお風呂に入って、狭いところに入っているのですけれども、ちょっと位置関係が微妙な写真ですわな。ほかは、特に。多分これはモデルでポージングをされているものだからいいとは思いますが。

家庭科もいろいろな視点からいろいろな意見が出たかと思うのですけれども、よろしいですか。

○ **担当** はい。ありがとうございます。

○ **委員長** では、ちょっとここで家庭科のほうを終わりにさせていただきたいと思えます。

続きまして、うずたかく積まれているほうに。国語からですか。お願いします。

○ **担当** 国語です。お願いいたします。

全部で4社ございます。

東京書籍です。例えば、104ページにあるように、「言葉の力」という形で、その教材で身につける資質・能力を明示しています。3つの資質・能力をバランスよく身につけられるとともに、教師側も生徒側もともにここで何を身につけるのかということが明確になる、そういった構成になっています。全ての単元について学習の流れが共通しており、生徒が見通しを持って学習に取り組むことができます。

○ **委員長** 説明の途中でごめんなさい。技術・家庭で、1個、忘れていました。いいですか。

これは、音楽の一般と器楽みたいに、技術と家庭科の相関関係はどうなのですかね。要は、技術と家庭で違う社でも全然構わないのか。

○ **担当** はい。構いません。

○ **委員長** いや、採択側はいいのだろうけれども、使っている側は特に関連はないですか。別でも全然大丈夫と。

○ **委員** ないですね。先生、別のときもありました。

○ **委員長** 分かりました。

すみません。続けてください。

○ **担当** 例えば、1年生の6ページで学ぶことのように、情報と情報の関連を捉える。これは学習指導要領に新設された情報の扱い方に関する事項の扱いになっています。そこで批判的な読みを促したり、情報を関連づけてまとめたりというような論理的な思考力を鍛えることが期待できます。9ページのように「学びの扉」というものが設定されています。ただ、そこは漫画になっているために、扱いには工夫が必要であるということで調査研究委員会から報告を受けております。

続いて、三省堂です。三省堂は、例えば、40ページ、それから、76ページのように。

○ **委員長** 1年生ですか。

○ **担当** 1年生です。失礼しました。

「読み方を学ぼう」というところが、3年間をトータルで22種類設定されています。ここで身につけた力は、国語科だけではなくて、他教科で文章を読むときであったり、日常生活であったり、そういったところで活用できる思考の方法を学ぶことができます。また、3年間を通して説明的文章で取り上げているテーマが、例えば、自然科学であったり、国際理解であったり、多様な課題が取り上げられており、国語を学びながらにして現代的な課題について生徒が理解を深めることが期待できます。巻末にある語彙表では、語彙の質・

量の両面を豊かにし、実際に学習の中で使うことで、確かな語彙力の定着を図ることができます。「話す・聞く」では、グループディスカッション、スピーチ、読書活動などで使うことができる「話し合いのこつ」というものが示されています。ここについても、文京区の生徒の実態に合わせた活用、指導が必要であるという報告を受けております。

3社目、教育出版です。単元の初めの「学びナビ」では、その教材の学び方をきちんと示しています。子供たちに学習への構えを持たせるとともに、ここについても学習の見通しを持つことにつながるというふうに考えています。また、学習の流れも統一されていて、ここも見通しにつながる部分であります。説明的文章では、多様なテーマを取り上げていて、先ほどと同じように、生徒が多種多様な側面から現代課題に触れる機会になります。2年生の10ページ、「話す・聞く」の単元では、学習過程に重点を置き、学習の流れやモデルを示し、学びのヒントにすることができます。思考力を働かせながら、コミュニケーションの能力を高めることにつながります。

最後、光村図書です。光村図書は、1年次の初めに「話す・聞く」領域の基本的スキルというものが示されています。ここで3年間を通して活用できる力を指導することができます。1年生の9ページ、「思考の地図」というものがございます。ここでは、場面や目的に応じた思考ツールが紹介されていて、生徒が、課題解決の方法を学び、国語科はもちろんですが、国語科以外でもいつでも使える思考の足がかりとすることができます。巻末には、思考のレッスン、情報整理のレッスンといったものがあり、学習内容を一覧することができます。ここも、他教科、社会生活、必要なときに振り返ることができるようになっています。1ページの構成の中で、例えば、1年生の52ページのように、課題が上下に分かれている箇所が何点かあるようです。生徒の視点が、上から下、下から上というように移動が必要な場合があり、ここについても、使う側、指導者側の工夫が必要であるという報告を受けております。

QRコードは、4社ともあります。それぞれ学習に関連する資料を見ることができます。

以上、4社についてです。よろしくお願いいたします。

- **委員長** 順次、御意見を申し上げます。
- **委員** QRコードはあるのですが、これはそれぞれの量はどのくらいですか。QRコードの量について。
- **担当** 見られるコンテンツの数ということですね。
- **委員** コンテンツの数なんかは。
- **担当** お調べいたします。
- **委員長** いろいろな作品とか、詩歌を取り上げていますけれども、詩の中で、三省堂は、1年生「栄光の架橋」、2年生「365日の紙飛行機」、3年生「さくら（独唱）」、森山直太朗、今風なものが随分入っていますね。子供らは親しみやすいかもしれませんが、ただ、それを読ませるのがいいのか、本当に代々受け継がれているものがあるのかというのは、分からないところですが。

これは文京区ゆかりの作品がいっぱい出ているよとか、そういう特徴とかはあるのですか。

○ **担当** 国語科については、特に報告は上がってきていないのですけれども、手元の資料で分かれば、後ほど発言させていただきます。

すみません。先ほどのデジタルコンテンツの数なのですけれども、今、1年生の教科書だけで比較したところ、東京書籍が26で一番多いようです。三省堂が22、教育出版が12、光村が16、1年生だけで数えますと、数としてはそんな数が出ております。

○ **委員** 発言します。

巻末の資料は、三省堂が圧倒的に見やすいなど。同じことを書いているのですけれども、辞書を作っている会社だからか、例えば、318ページ以降の漢字辞典とか、ほかと比べると、同じことを書いてあるけれども、何か見やすいですね。目に入ってくる。あと、そのほかのところも結構充実している。

○ **委員長** いかがですか。

どうぞ、何もおかお気づきの点があったらどんどん挙げてください。

○ **担当** よろしいですか。

○ **委員長** お願いします。

○ **担当** 先ほどの文京区に関連するといったところで、今の時点で見つけているのが、東京書籍、3年生、森鷗外の「最後の一句」という扱いが214ページにございます。同じく森鷗外で、三省堂の3年生、226ページで小説「高瀬舟」の扱いが、今、見つけることができました。また見つければ発言させていただきます。

○ **委員長** ありがとうございます。

文京区が力を入れているというところで、ちょっとプレゼンテーションのところを比べてみました。全部2年生です。東京書籍が107、三省堂が99、教育出版が61、光村が54です。もう一回言います。全部2年生です。東書が107ページ、三省堂が98ページ、教育出版が61ページ、光村が54ページでございます。

何となく、これを見て、うまくできそうだなというのが、分かりやすいと、私です、三省堂かなという気がします。光村も、何かぱっぱと見ていくと丁寧だなという感じですね。東書もまあまあという感じですかね。三省堂と光村がいい感じで、東書がまあまあという感じですね。

○ **委員長** 何かすっと入っていくのは、三省堂と光村、どちらですかね。

○ **委員** 三省堂は、先生がおっしゃったとおり、この1年生なんかはグループで話し合いをするというところの32ページなんか、どうやって提案して確認して質問してとかという、三省堂は細かく書いてあって見やすく、グループでの話し合い方も何か分かりやすく出ているかなとは思いますが。

○ **委員長** 話し合い活動等は、今、三省堂が詳しく分かりやすいのではないかという御意見を頂きました。

○ **委員** 同じく三省堂さんの1年生で、資料のところなのですけれども、さっき先生がおっしゃっていたみたいに、資料が見やすいのと、290ページで、1年生の子だけの資料をちょっと見比べてみたのですけれども、三省堂さんだけ、290ページぐらいから、メモを活用するとか、何かメモもいろいろな取り方がることが示してあったりとか、その後の話合いの形式を選ぶとか、何かやはりそういうディスカッションとか、プレゼンテーションに関連したことがすごくたくさん書いてくれていて、もし社会に出たときには、少しずつ役に立つことが頭に入っていたらいいなと思います。

○ **委員長** ありがとうございます。

291のこのいろいろなメモ、種類が出ているのなんかいいですね。これね、論理的思考力を。

○ **委員** そう。書くだけではなくて、こういうときにはこういうメモをとというのが、なかなか習わないで私たちは大人になってきたかなと思うと。

○ **委員長** ありがとうございます。

作品の取上げ方なんかはどうですか。そもそもの国語のところになってしまうのですけれども。4社共通で取り上げているのもあるし、この取上げ方というのは、一定のあれですよね。検定を通っているわけですから、何がどうこうというあれではないとは思うのですけれども。

○ **副委員長** 今、1年生のヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」というのが4社ともあるのですけれども、例えば、東京書籍は、本文の中にも読み仮名が振ってあったり、あと、出てくる漢字も、全部下に、小学校なんかは比較的そういうのが多いのですけれども、全部漢字とその読み方が、音読み、訓読みで紹介されています。そういう意味では、家で予習とかしていなくてもさっと読めるいうふうに思います。

ほかの会社を見ると、読み仮名はほとんど振ってなくて、例えば、教育出版は、難しい漢字が下に紹介はされているのですけれども、全くその読み方は書いていないので、自分で調べないと分からない感じです。

光村などは、読み方も紹介されています。

三省堂は、教科書に出てきている単語がそのまま読み方が下で示されているだけで、それ以上詳しい説明はないというところで、親切がいいかどうか分からないのですけれども、一番親切なのは東京書籍で、一番シンプルなのは教育出版という感じがします。

○ **委員長** ありがとうございます。

今、挙げていただいたヘルマン・ヘッセ、「少年の日の思い出」は、1年生で全部出ていて、2年生は「走れメロス」、太宰治、3年生は、魯迅の「故郷」が4社とも全て出ています。その辺から、今、1年生で比べていただきまして、比べると、結構比較ができるのかなと思います。

○ **委員** 作品の取上げ方ではないのですけれども、1年生はどの会社も古典で「竹取物語」を全部載せていますけれども、光村さんだけが160ページから現代訳が古文の真横に。

- **委員** ほかの会社は、全部上下に分けているので統一されているのですけれども。
- **委員長** 特徴的なところですね。
- **委員** そうですね。古文を読まないで、隣の現代文を読んでしまうかなとか。上下に分かれているほうが、強制的に読むのかどうか。どうでしょうね。国語の先生的にはどうなのですかね。
- **委員** 東京書籍は、本文中でも2段に分かれて掲載されているパターンというのが結構多くて、個人的にはちょっと嫌いだなと。上を読んだ後、下に目を移さなければいけないというところが、時系列的にすぐにずっと頭に入りづらいなというふうに感じてしまいました。
- **委員** よろしいですか。
- **委員長** お願いします。
- **委員** 文法的な説明が、東京書籍は1年生からとても詳しく出ているのですね。それがいいかどうかは分からないのですけれども、ほかのところも大体3年生までには網羅しているのですけれども、1年生で、これだけ、基礎編というところでほとんど文法の用語も出ているし、高校入試、大学入試にも出そうなような文法が出ているのですね。だから、ハウツー物として、すごく東京書籍の国語は、この資料編は特に、利用価値があるとは変な言い方ですけども、学習参考書を見れば出ているようなことがこの教科書に出ているという、そういう特色が東京書籍の文法に関しては言えると思うのですね。とても詳しいですよ。文法に関する説明とか、論文を書くときの要約の仕方とか、根拠の述べ方とかね。
- **委員長** それは、やはり自主的な学習にはかなり生かせるということですかね。
- **委員** そうですね。だから、やる子はとても役に立つけれども。
- **委員長** 発展的にも伸びていけると。
- **委員** そうですね。
- **委員長** ありがとうございます。

どうでしょう。国語は、そろそろ意見が出尽くした感じもあるのですが、よろしいですか。

- **委員** はい。
- **委員長** それでは、書写に行きます。

お願いします。

- **担当** 書写です。

同じく、4社から出ております。

初めに、東京書籍です。形がB5判変形判ということで、紙面が広く取ることが出来ます。その分、資料、内容が充実しているという印象を受けます。「書写のかぎ」というコーナーで、その単元のポイントを示していて、狙いや単元のポイント、書く、生かす、振り返りという学習の流れを意識することができるようになっています。毛筆で書いている様子を真上から撮影した動画を見ることができます。真上から見ることで筆の運びを見る

ということが出来ます。巻末の「書写活用ブック」は、書写で学んだことを、日常生活で手紙を書いたりとか、また、ポスターやリーフレットなど、そういったところの書くという場面に生かすことができる。そのような構成になっています。

続いて、三省堂です。三省堂は、見開き2ページで1単位時間が構成されており、その中で、学習目標と振り返りまでできるようになっています。具体的な書き方のポイントを、図と言葉を併せて解説しています。また、同じページの中で楷書と行書の比較ということもすることができるようになっています。QRコードでは、書写の基本的な知識・技能を確認することができます。

教育出版です。見開き2ページを、毛筆と硬筆で構成をしています。手本の左側にある「生かそう」では、硬筆で書く際のポイントを確認することができます。このように、硬筆と毛筆の指導を関連づけることができるという特色があります。例えば、105ページのように、実物大の写真があり、子供たちが生活場面と結びつけて考えることができるような構成になっています。28ページの「竹取物語」や、36ページのお勧めの本の帯やポップをつくろう、111ページ、情報を比較するなど、国語科と書写を関連づけた指導をすることが期待できます。

光村図書です。別冊になっています「書写ブック」というものがあり、それを硬筆用として活用することができます。教科書の中で学習の進め方というものをしていて、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組むことができるような構成になっています。動画のコンテンツは、これも真上からの動画を視聴することができます。また、書き方だけではなく、例えば、筆や紙、すずりといった道具の作られ方や漢字の始まりなど、書くこと以外の部分でも学習に役立てて活用できる、資料を視聴することができたり、NHKの学習動画を視聴する、そこに飛ぶようになっているということも特色です。光村は、お手本が原寸大で大きくて使いやすい。分かりやすい。生徒にとっても、横に置いて比べながら書くというような使いやすい構成になっているということで御報告を受けています。

書写については、以上です。よろしく願いいたします。

○ **委員長** 国語について、展示会の中で、光村がよいですという意見と、光村が昔からの題材が多く安心して読めましたというのがございました。評価は、調査研究委員会に加えて、事務局のほうからトピックがあったら展示会の意見も同時に教えていただいでよろしいでしょうか。次からそうしてください。

○ **担当** はい。

○ **委員長** 書写をお願いします。

○ **委員** この三省堂がとても小さいのですけれども、理由は何でしょうね。余分なことが書いていないということですね。つまり、書写は小学校でもやるのですよね。

○ **担当** 扱っています。

○ **委員** だから、中学校に入って、国語でこれだけのボリュームをやって、しかも書写を、小学校でやるようなことを書写の時間を使ってやって、現場の先生はどうなさってい

るか知らないのですけれども、すごくこの丁寧に書写の本を作っても、そんなことをしている暇はないというのが現実ではないかなと私は思うのですけれども、それは現場の先生が何か考えてやってくださればいいことなのですけれども、教科書にしても、こんなにたくさん教科書を書写で使って、あまり授業で使わないのだったらもったいないなという気がして、三省堂がこれだけコンパクトにできるのだったら、ほかもそれくらいいいのではないかなという気がしました。筆の持ち方とか、何か、小学校で当然やっているのですよね。書道をやりますから。小学校でも。硬筆もやるし。だから、わざわざまた中学に入ってそんなことまで教えなくてもいいのではないかなというのが、私の考えです。

○ **委員長** ありがとうございます。実際、指導時間はどれぐらいですかね。ちょっと誰か調べてきてもらっていいですか。書写の、1、2、3年で、指導時間数。だから、僕は専門家ではないのであれですけれども、書き初めとかで貼ってあるのを見ると、トメ、ハネがうまくできていないとか、小学校のときで必ずしも全部がきちんと身につけてきているわけではない部分もあるので、示していただくのは必要かと思います。ただ、確かにこれだけの分量をやる時間があるのかと言われると、非常に厳しい部分はあるかと思います。

47都道府県名とか、やるかな。やっておきなさいよかな。

○ **副委員長** 今、47都道府県と聞こえたのですけれども、ちょっと見比べると、光村はもうそのままぞって練習もできる感じになっていますけれども、ほかの会社は、お手本だけ書いてあって、自分でやってくださいという感じです。それから、三省堂は、地図のところこう書いてあって、一度はなぞれるような感じになっています。全体的に、光村は、この都道府県だけではなくて、その後、年賀状となりますが、書写ブックもあり練習ができるようなつくりになっていると思います。

○ **委員長** ありがとうございます。

実際、先ほどから出ている授業時間数の少ない教科と同じで、授業で習うだけでなく、今、副委員長がおっしゃったように、自分で練習する、そういうところもあるというのは、確かにいいと思います。

○ **委員** 1つ、よろしいですか。

自分で使うという意味の視点からなのですが、全ての教科書の中に、手紙の書き方という項目が全て書かれているのですけれども、その中ではがきの書き方とかに関してですね、教育出版さんと東京書籍さんは、すごく手紙を書いたことがない人でも分かりやすく書いてあったりするなというふうに思いました。例えば、はがきの中から、自分の宛先を書くところで、住所よりも名前を下に書くというのは、書いている人にとっては当たり前なのですが、初めて書く人はそこまで考えが及ばなかったりするのですが。ごめんなさい。間違えました。三省堂と光村がすごく分かりやすく書いてある、そして、東京書籍と教育出版がちょっと簡素に書いてあるなという印象を受けました。この名前の位置だったり、往復はがきのところで「御」を消すよとか、そういったところまで書かれているので、自分

で家で手紙を書かなければいけないとか、将来、結婚式に出席するよというときに、これを見ながらでも何とかやりくりできるような内容になっているかなというふうに理解しました。

○ **委員長** ありがとうございます。

○ **委員** 国語で新聞づくりをやるのだと思うのですけれども、新聞づくりが書いてあるのは東京書籍だけで、ほかは何か新聞づくりの説明が書いていないのですけれども、これはいいのかわかりませんが、新聞づくりについての説明があります。

○ **委員長** 光村は、別冊があるのですね。「書写ブック」。でも、なくしてしまうかもしれないのですけれども。

○ **委員** 今に関連してですけれども、書写の教科書という感じで見ると、先ほども余分な情報は要らないのではないかという意見もあったのですけれども、シンプルでというのはありましたが、学校の教育課程は、例えば、総合的な学習の時間とか、そういうのもあって、教科横断的な学習活動もあるので、結局、お礼状を書いたりとか、先ほど出てきた新聞にまとめたりとか、そういう活動もあるので、書写の教科書にこういう情報が載っている、ちゃんと載っているというのをほかの教科の教員も共有することでかなり有効に使えるかなという感じがします。

○ **委員長** カリキュラムマネジメントというやつですね。

○ **委員** そういうことですよね。

○ **委員長** そういう意味で丁寧なのは、どれですか。使いやすそうなの。

○ **委員** 東京書籍は、先ほどあったように、新聞なんかが。

○ **委員** 新聞は、いろいろ載っているみたいですが。

○ **委員** でも、どこも手紙とかはがきは。

○ **委員** 載っています。

○ **委員** 先ほど、はがきのやつは分析していただきましたので。

○ **委員長** 光村の98ページに、ユニバーサルデザイン書体とは何だろうというコラムがあります。ほかはこれがないのですけれどもね。多分、ぱっと見た感じ。今、パソコンなんかでも、このUD何とか体というのが入っていますので、子供らは、こういうところから、ああ、そういうことなんだなといって、こういうのを使うようになってくれば、またいいですね。

○ **担当** 先ほどの授業時間数について、よろしいでしょうか。

○ **委員長** お願いします。

○ **担当** 1年生、2年生では、年間20時間程度。3年生では、10時間程度ということを示されておりまして。

○ **委員長** 書写はこの辺でよろしいですか。

それでは、数学に参ります。

○ **担当** 数学です。

全部で7社というところでは、

東京書籍です。東京書籍の大きな特色としては、例えば、63ページや、1年生です、ごめんなさい、73ページの下の部分にあるように、オレンジ色の矢印で言葉があり、そこが導入に使われるというところになっています。生徒に疑問を投げかけて課題意識を喚起し、解決をしていくというふうな学習の流れになっています。全体を通して、問題解決的な流れになっていて、協働的な学習活動が期待できる。調査研究委員の先生方の捉えとしては、問題の分量と難易度は多くの生徒に適切であるというふうに考えています。教科書の中で、ノート指導に生かすことができるページがつけられています。思考の過程を書き残すということを重視する、そういった指導が期待できます。

大日本図書についてです。図形領域の導入が工夫されています。1年生では、164ページに。そこでは漫画が使われています。2年生では、134ページに。そこでは生徒同士の対話。3年生では、176ページ。そこでは観覧車が使われています。イラストと図を並べて示すことで、視覚的に認識について考えることができるというふうに捉えています。ここについては、例えば、2年生の45、46ページのように、図とイラストを関連づけて式をつくるということができます。調査研究委員のほうから、二次方程式の解法が因数分解から始まって扱いやすいということで報告が上がっています。これは、7社を見てみると、大日本図書は、因数分解が1番目、2番目が平方根、3番目が解の公式という順番で取り扱っています。ただし、この順序で取り扱っているところはほかの教科書もあります。学校図書、教育出版、数研出版、日本文教出版が、因数分解、平方根、解の公式という順番で扱っていますので、大日本図書だけの特色ということではなさそうです。ほかの東京書籍、啓林館については、扱う順番が、平方根が一番最初、次が解の公式、最後に因数分解というところでは、各教科書会社によって、二次方程式の解法の指導の順序、扱いの順序が違うようです。64ページのように、身につけた基礎的・基本的な力を活用・探究する内容というものが含まれています。ウェブページのリンクでは、キャリア教育につながる内容が示されています。数学で学習した内容と関連させて、身の回りにある数学というものに目を向けさせることができます。

続いて、学校図書です。156ページにあるような、単元の最後に日常生活と生活場面とを関連づけた学習を設けています。学習内容の確認と同時に、学びを深めることが期待できます。巻末の折り込みでアイデアボードというものが入っていて、ホワイトボードのちょっと簡易版のようなものです。個人やグループで活用し、意見を書き込むことで、学び合いが期待できます。そこだけ取り外して持ち運ぶこともできるようになっています。ノートの使い方も指導することがこの中で入っています。学習記録の仕方を指導することができます。

続いて、教育出版です。巻末ページの補充問題で習熟に応じた演習問題をするすることができます。例えば、57ページのように、生徒の誤答例、間違いの例を活用して、誤答のないように注意を喚起したり、その誤りを修正させることで確実に問題を解くことを身につけ

させることができます。単元の初めに問いを持って学習に入ることができるような構成になっています。問いから、最後の振り返り、そして、さらに深めるところまでの流れになっています。例えば、大きなまとまりでいうと、22ページから63ページのような大きなまとまりです。初めに、学習する前にというところがあり、最後では、学習のまとめではというところ、それが一つの章のまとまりになっています。定着が不十分な内容については、右側に小さく書いてある、そこの側注のページに戻ることで、さらなる学習内容の定着を図ることができます。

啓林館です。これも、巻末の「学びをいかそう」で課題学習や探究学習に生かせるテーマがあり、日常生活への汎用化を図ることが期待できます。各章のまとめでは、生徒の理解度に合わせて活用することができます。課題の中で、リサイクルの取扱いであったり、国際理解、災害に関する、そのような数学的な問題もあり、今日的な課題への取組について配慮されています。

数研出版です。各章の初めに「ふりかえり」があります。ここで初めに振り返ることで、既習事項との関連づけを意識づけることができます。ページの中で、生徒と教師のやり取りが吹き出しで示されているところがあります。それを通して、考え方の手順を話し言葉で見せることで、数学が苦手な生徒への支援につながるというふうに捉えています。発展的な内容を扱う探究ノートというものがあります。それを用いて、対話的な学習やICTの活用につなげることができます。3年生の236ページにあるように、皆既日食、金環日食の取扱いとか、また、ほかの学年では、人権、福祉、伝統、文化、防災などの取扱いもあり、他教科との関連も図ることができます。

最後に、日本文教出版です。1年生、10ページでは、小学校の学習内容の確認ができて、さらに中学校の内容との関連づけを図ることができます。また、関連づけという意味では、3年生の110ページのように、中学で学んだこととの関連づけも図られており、学びの関連づけ、学び直しということを重視していることが分かります。各学学年に「学び合おう」というところが設定されていて、そこを通して協働して問題解決をする学び方を学ぶことができます。各章の扉のところでは、導入のところ、例えば、1年生、124ページの辺り、そこで学びの必然性やストーリー性を重視した構成になっており、課題の本質を端的に表す、そのような構成になっています。1年生の88ページのように、紙面の中で、生徒、教師の対話が多く使われていて、思考の過程や数学的な表現をそこで例示しています。また、3年生の8ページのように、ノートづくりのポイントを具体的に示しています。学習の様子をノートに残すことで、学びの価値であったり、自身の成長であったり、そういったことを振り返りをさせることができる、そのような構成になっています。

数学については、以上です。よろしくお願いたします。

○ **委員長** それでは、お願いします。

お気づきになったところから、挙げていただいて結構です。全部見比べなくても、これだけございますので、この会社のこのところはいいとか、そういうのをどんどん挙げて

いただければありがたいかと思えます。

お願いします。

○ **委員** 東書は、非常に色が何か分かりやすいと。いろいろな説明してみようとかというところの背景が分かりやすいなど。啓林館のは、逆に、何か茶色っぽい形で使うと、何かすごく見にくい感じになるので、見た目なのですけれども、学習していて非常に分かりやすいのではないかなと感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

○ **委員** 教科書の意見はいかがですか。

○ **担当** 特に上がっていませんでした。

○ **副委員長** 索引なのですけれども、東京書籍の索引は、単にその言葉が書いてあるだけではなくて、その索引だけで分かるようになっていきます。例えば、中心角というのはどういふものだよ、そこに図が出ているので、使いやすいと思いました。

○ **委員** 啓林館の後ろのところが、向きがこういう向きになってしまっているところはどうかかなと思って。見にくいのかなと思ったのですよね。横向きなのに、最後、後ろだけ縦になっているのは、そういうのは気にしなくてもいいのかな。

○ **担当** そのことについて、教科書会社の解説資料では、机の上で、ノート横、教科書横という、ちょっと場所の問題があるので、教科書を縦で使うというような配慮がされていますという、そういうことは記されておりました。

○ **委員長** なかなか答えは難しいと思うのですけれども、文京区の場合、発展的に学校外で学んでいる子たちも多いのですよね。特に数学なんかは。簡単に言うと、塾へ行っていたりして、学校で教えている発展的な内容なんかはもう既にやっていたりして、かなり幅広いと思う。その反面、そうではなくて、基礎的なところをしっかりと押さえないといけない。そういう意味では問題とかは出ていて、幅の広さという点では何か特徴のある教科書はありますか。要は、下も押さえているけれども、上にも対応できるみたいな。上のほうはそれぞれに合った問題集を自分で用意すればいい話なので、特に基礎的な問題の分かりやすさとか、そういうところが、例えば、委員会とか、学校からの意見とかで、特にこの教科書は基礎的なところを重視しているよというものはありますか。自分で見つければいいのですけれども、なかなか拾えないもので。

○ **委員** 教育出版の探究ノートとあるのですけれども、付録みたいなこれは、興味のある生徒にとってみれば。

○ **委員** 数研出版ですよね。

○ **委員** 何かこれからの数学ということで、探究ノートという、あまり教科書に出ていないことが出ていますけれども、こういうことで興味を持てば数学が好きになるかなと思って、ちょっとユニーク、しかも、別冊になっていて、とても生徒と先生の会話とかがあって、ちょっと取っつきやすいというか、何か特色があるなど見ました。あと、チャレンジ編があって、教科書の後ろに、そういう意味で、上の子たちもちょっと利用できる

内容があるような気がしました。

○ **委員長** ありがとうございます。

この探究ノートというのは、個人だけではなくて、グループなんかでも問題を解いていくようなことに使えるようになっているのですかね。

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。全部見比べなくても結構ですので、トピックで気がついたところがあれば挙げてください。

○ **委員** よろしいですか。

○ **委員長** お願いします。

○ **委員** 大日本図書の教科書の65ページに、「発見！仕事のなかの数学」という雑学的なトピックが取り上げられているのですが、よく子供とかに何で算数や数学をやらなければいけないと言われるときに、将来、数学はこういうときに使うよねとかというところが可視化されているところが、非常にいいコンテンツだなというふうに思いました。

一方、この数研出版社さんの内容はすごくシンプルで質実剛健だなというふうに感じました。

感想です。

○ **委員長** ありがとうございます。

ちなみに、オリパラなんかも取り上げていて、東書では、東京オリンピックの開会式の生中継はリオでは何時から放送されますかとか。

大日本は、アーチェリーの的とか、砲丸投げの投てきサークルから、円について考える。

学校図書は、体操競技で調整平均が用いられている。調整平均とは何ですかね。あの上と下を取ってやるというやつですかね。

そういうふうな形で、教育出版は、オリパラが、4の倍数の見つけ方を求める、4年置きにということですか。

日文が、セーリングの写真を基に、形が同じで大きさが違う図形を比べるとか、いろいろ工夫はしているみたいですね。

啓林館、数研出版は、オリパラはないみたいです。

あと、自然災害で地震なんかはほとんどのところが触れていますね。地震のP波とS波の時間からその関係性をとかいうやつです。

学びやすさという点では、いかがでしょうか。どこの社かということではなくて、すっくと取り入れやすいとか、関心・意欲を引きやすいみたいなどころがあるとうれしいのですが。これも学校とか委員会のほうで出ていたら教えてください。

○ **担当** 先ほどの問題の幅というところなのですけども、啓林館の問題の難易度はやや低いのではないかといいところが挙がっていますが、その反面、先ほど、縦向きで使える巻末のところ、ここを活用することで、発展、応用、そこに取り組む子にとってはここを使える、難易度はちょっと低いけれどもという意見は頂いております。啓林館です。

- **委員長** ありがとうございます。
- **委員** 正の数・負の数から始まるのと、素因数分解から始まる、どっちのほうが、その素因数分解から始まるほうが、先生方としてはやりやすいのですか。出ていましたよね。さっき。
- **担当** さっきの二次方程式ですね。3年生については、調査研究委員のほうでは、因数分解から始まるほうが扱いやすいと。
- **委員長** 今、どこもおまげが後ろにいろいろついていきますよね。
- **委員** 学校図書の1年生とかは、またゲームになっていて、表紙は結構取っつきにくいのに、学校図書さんが、意外と中身は何か子供が食いつきやすい感じに。
- **委員** そうですね。プログラムが何かまたね。
- **委員** 何か、最後にね。
- **委員** Scratchがまた出てきますよね。
- **委員** プログラミングのことが載っていたりとか。
- **委員** 同じように。
- **委員** この学校図書の最後のこのホワイトボード用のペンで書いたら消せるよというの、これはこのプログラミングのときに何か使う。何に使う。
- **委員** いや、それは違うかな。
- **委員** 何に使う。
- **委員** これは、いろいろこんなふうに解いてみましたというのを、何か。
- **委員** 何度も使えますよという。
- **委員** ちょっと小集団とかで、何か自分の考えを示し合ったりなんかするときに使う。
- **委員長** よくこれぐらいのホワイトボードにみんなで書いて黒板に貼って発表とかをやったのですけれども、今、タブレットでそれができてしまいますので、結局、タブレットで同じことはできますか。
- **委員** これだと、切らないですね。
- **委員長** いや、それぞれの意見を、ほら、タブレットに書いて、全員、貼ることもできますよね。今、例えば、作図しているのを全員映しておいて、数学の授業でこの間見たのですけれども、タブレットでやっているのを見て、ちょっと止めて、この子を見てごらん、大きくして、今、すごくいいところに気がついているよねというのもやっていますので、これは自分の考え方をまとめるのですかね。
- **委員** そうでしょうね。これだと。
- **委員長** 書いて、消して、書いて、消してと。でも、書くペンが必要ですわな。
- **委員** でも、あまり持って歩いていない。
- **委員長** でも、見やすいとか、取っつきやすいというのはいいですね。
- **委員** ですよ。何か表紙をもっと取っつきやすくしたほうがいいのだけれども、何か表紙はちょっと取っつきにくいのですけれども、中身はあれですかね。先生がおっしゃ

るみたいに、塾に行っていない子もやはりいるので、公立なので、どちらかというとその塾に行っていない子がベースのほうが、親としてはちょっとありがたかったりは。

○ **委員長** そうですね。発展的な問題は、問題集とか、そういうところで補完は幾らでもできますので、教科書自体はやはり基礎的なところが充実していて、見ただけで嫌にならないように。特に数学も、こんなことを言うてはいけないのですけれども、苦手な子というのは本当に小学校でつまづいて上がってきていますので、それが取り戻せるような手だてができるといいのですけれども、我々の知識ではそれができる教科書がどれかというのはちょっと分からないですね。

○ **委員** すみません。数学は、全社でデジタル教科書が当然にあるのですか。

○ **担当** ついています。はい。

○ **委員長** 啓林館はおまげがないのかな。

すみません。啓林館は、やっと分かったのですけれども、背中に「みんなで学ぼう編」、
「自分から学ぼう編」と書いてあって、「みんなで学ぼう」しかないではないかと思ったら、裏を見たら「自分から学ぼう編」で。

○ **委員** これはこういうふうになっているということ。そうか。

○ **委員** ここから自分でやれということですね。自分からやる。

○ **委員** 両面。

○ **委員長** だから、「自分から学ぼう編」がこうなのだね。

これについて、何か、学校とか、委員会で、これはいいとか、あまりとか、出ていますか。

○ **担当** ここはやはり活用できるのではないかと。さらにどんどん進める子、できる子にとっては、いいのではないかというようなところは、調査研究委員会から報告を頂いています。

○ **委員** そうすると、例えば、数学で習熟度別に少人数に分けてあったときに、上のクラスの子はこちらのページから先生も授業をされたりとかという感じになるのですかね。

○ **担当** そういう活用もできると思います。

○ **委員長** 基礎的な問題から少し難しい問題までいろいろ取りそろえていますとは書いてありますがね。自分でやっていくのだろうな。面白い構成ですわな。

○ **委員** 内容とはちょっと関係ないのですけれども、日本文教出版と教育出版は、英語表記が索引とかにみんな出ているのですよね。数学の用語とか。ほかのところは別に英語表記は出ていないのですけれども、この2つの教育出版と日文のほうは、英語で数学の用語が索引のところに全部出ている。ちょっと感心しました。中学校でこういうふうに英語を習ってくれば、高校に行つて、すごく日本がグローバルになっていく段階かなと思って、びっくりしたというか、驚きました。いいことだと思うのですね。別に興味がある人だけが見ればいいわけで、学校でやらなくてもいいので、興味があれば、英語でこれは何と言うのかなと見たら、後々、役に立つかもしれない、好きな人はというふうに感じました。

○ **委員長** 初めて知ったものがいっぱいありますわな。初めて見たら、こんな英語を使うのですかと。

○ **委員** でも、結構これからそういう用語も出てくるのではないかなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

すみません。進行が悪いので、もうお時間が。1回2時間ということで事務局が取り決めているようでございますので、数学はこれで一応一区切りをつけて、また御意見があればといっても、持って帰って見ないのであれですけども、もう十分それぞれ出ていますか。意見。

○ **担当** はい。ありがとうございます。

○ **委員長** 大丈夫ですか。

○ **担当** はい。